

## 済生会滋賀県病院を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用又は提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題名 (倫理委員会受付番号)	再発性病期 T1 膀胱癌における second-TUR の有用性に関する多施設共同 後方視研究 (No.294 )
当院の研究責任者	馬場 雅人
他の研究機関および各施設 の研究責任者	滋賀医科大学 泌尿器科 影山 進
本研究の目的	<p>TUR で病期 T1 と診断された膀胱癌では未切除の残存腫瘍が比較的多いことが報告されています。また、一部の症例では筋層浸潤が見逃され、過小病期診断となっていることも知られています。したがって、近年の診療ガイドラインでは残存腫瘍切除と正確な病期診断を目的とした second-TUR が推奨されています。</p> <p>一方、T1 膀胱癌は再発・進展のリスクきわめて高いため、再発予防目的に BCG 膀胱内注入療法を行うことが標準治療です。Second-TUR の導入により正確な病期診断が得られ、適切な治療対象者が絞られることで、BCG 膀胱内注入療法の治療成績の向上が見込まれていますが、その結果はまだ定まったものではありません。</p> <p>以前、我々は初発 T1 膀胱癌の second-TUR の有用性について検討しましたが、再発 T1 膀胱癌について検討は行っておりませんでした。</p> <p>以上の背景から滋賀医科大学泌尿器科および県内各病院における second-TUR 後の患者様の治療効果を明らかにすることが意義深いと考え、再発 T1 膀胱癌に対する second-TUR の有用性を明らかにすることを本研究の目的としました。</p>
調査データ該当期間	1990 年 1 月 1 日から 2016 年 12 月 31 日までの情報を調査対象とする
研究の方法 (使用する試料等)	<ul style="list-style-type: none"><li>●対象となる患者さま 1990 年 1 月 1 日から 2016 年 12 月 31 日の期間中に当院において膀胱癌（病期 T1 に限る）の治療を受けた患者さま</li><li>●利用する情報 電子カルテに記載のある診療記録、検査データを利用する</li></ul>
試料/情報の他の研究機関への提供及び提供方法	多施設共同研究であり、京都府立医科大学 泌尿器科・研究責任者 影山進へ、個人情報削除後に電子的配信によって提供する。

個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません
お問い合わせ先	電話：077-552-1221(病院代表) 担当者：馬場 雅人 (泌尿器科)
備考	